

平成20年度(2)

コムギ遺伝資源小委員会及びNBRPコムギ運営委員会議事概要

日時：2009年3月29日（日）9:00 - 15:00

場所：京都大学東京連絡事務所

出席者：22名

[コムギ運営委員会 運営委員] 9名 辻本、遠藤、河原、山崎、村井（耕）、寺地、中村（俊）、藤田、小林

[NBRP・コムギ 実施担当者] 4名 川浦、坂、岸井、那須田

[NBRP・コムギ 事業協力者] 1名 笹沼；

[コムギ小委員会] 7名 大田、加藤、村井（み）、木庭、田中、森、乙部；

[文部科学省] 1名 平賀；

・議長 辻本（運営委員長）、書記 那須田

別紙資料はこちら [pdf形式](#)

小委員会議事録はこちら [pdf形式](#)

「議題」

(1) 平成20年度第一回、運営委員会議事録確認（別紙資料）

(2) 組織およびメールアドレス確認

(3) 報告事項：

1. 20年度事業報告

(1) 種子系統

- 07/08 シーズンに京大（物集女、遺伝）および木原生研で、約1280 系統の種子更新を行ったと報告（河原、別紙資料）。08/09 シーズンに京大（物集女、遺伝）および木原生研で、1502 系統を栽培する。木原生研では、京大からの分担分に加えて残数の少なくなった系統を播種した（坂、別紙資料）。
- 配布については、計画の80 件とほぼ同数（82 件）の実績（遠藤、別紙資料）。中国（中国科学院）からの多数系統同時リクエストが目立つ。配布数の統計が横浜市立大学のものと遠藤集計のものと合わない場合がある（電子メール等による直接リクエストがあるため）。ウェブページからのリクエストをユーザーに促す。21 年度から自家使用（横市大⇔横市大、京大⇔京大、横市大⇔京大）は配布にカウントしない（DNA リソースも）。
- 種子のバックアップ体制の確立のため、河原・遠藤・坂で協議し、第2期増殖分から3 か所での相互保存体制を試行する。

(2) DNA マーカー多型調査

- 48 系統に関し824 マーカーの調査を完了（那須田、別紙資料）。現在までに39,552 のプロファイル（系統×マーカー）を得ており、順調に進行している。データの暫定公開を開始し、7 件のリクエストに応えた。ウェブベースのデータベース公開については情報センターと準備中。公開猶予の北海道立農業試験場提供の2 系統（ホクシン、きたほなみ）に関しては、データ公開への努力を継続していく。また、7 月31 日に「DNA マーカーの多型調査」の集会を開催した。

(3) DNA リソース

- ホウ素処理関連のEST 90,306 シークエンスとコムギ完全長cDNA 5,913 クロンの完全解読シークエンスを収集した（川浦、別紙資料）。約4,500 のcDNA クロンを保存し、上記の5,913 とは別の約6,000 の完全長cDNA クローンについて保存しクローン配布準備をほぼ完了した。シーケンスデータの公開は整理中。国内外に70 クローン（すべてEST クローン）の配布を行った。
- これに対して、2007 年度ゲノム情報等整備プロジェクトで実施の約6,000 完全長cDNA クロンのデータ公開を早急に行うべきだとの指摘があった（目標：2009 年度初期）。くわえて、他の収集リソース（ストレス耐性EST、完全長cDNA クローン）のデータ公開に関しても予定を明らかにし、期日までに公開すべきとの意見が出された。NBRP・コムギの活動で行ったものとそれ以外を明確に分別し、NBRP・コムギのリソースはユーザーに利用しやすいように早急に公開してほしい、ワークショップの開催等により利用促進をはかってほしいとの要請があった。

2. 新制度によるNBRP 運営

- 3 月18 日の会議（研究開発施設供用等促進補助金ナショナルバイオリソースプロジェクト）の報告（那須田）。平成21 年度からの主な変更点は、（1）補助金化して継続的・安定的な助成、（2）機関（京都大学、横浜市立大学）の行う業務への「補助」、（3）自家使用にかかる費用は補助金から支出できない、（4）「提供」業務は補助対象外（実費徴収の実施）。新制度移行に関する諸問題は審議事項参照。

3. KOMUGI データベースワーキング報告

- 2008 年9 月30 日に発足したワーキンググループの活動について報告（那須田、別紙資料）。岸井正浩氏をワーキングに加えることを承認。リソースの利用促進が図られるよう、使いやすいデータベース公開のための工夫をおこなう。具体的には最新の種名の表記への変換（古い表記も残す？）、利用者の立場に立った複数の入口の設定などを検討すべき。

4. 学会等での活動報告

1. 日本分子生物学会（12月9 - 12日、神戸）で展示発表（展示の担当者の負担が大きいので、各時間帯とも二人で担当する等のバックアップ体制が必要。早期にコムギ関係者に協力要請。虎の巻やパンフレット等説明用資料を用意する）。
2. 細胞工学のバイオリソース特集に分担執筆。
3. NBRP の費用で那須田・河原が11回IWGS（オーストラリア、ブリスベン）に参加。
4. 育種学会第115回講演会シンポジウム（村井（耕）発表）への資料提供
5. NBRP のイベントを育種学会等のホームページで広報することを検討。
今後、学会等における広報活動が行われた場合には、遠藤に報告する（申請書・報告書等作成のため）。

5. 関連事項報告

1. （独）農研機構作物研による「日本のコムギ品種コアコレクション」事業について報告（藤田、別紙資料）。2012年を目標に96系統（在来45系統、育成51系統）のNBRP・コムギで選定した日本産コムギ品種コアコレクションをリリースする。コレクションは有償配布。
2. 植物検疫について報告（岸井、別紙資料）。輸入許可証が必要な国の研究者からのリクエストには許可証をつけてもらうことが望ましい。植物検疫は「輸出する側」の問題ではなく「輸入する側」の問題である。「輸入する側」で生じる問題を回避するためには、「輸入者」すなわち「依頼者」が相応の努力をするのが望ましい。

(4) 審議事項：

1. 平成21年度実施計画

(1) 種子系統

- 08/09 シーズンに京大（物集女、遺伝）および木原生研で、1502系統を栽培する（河原、別紙資料）。09/10 シーズン栽培分は、種子数等を考慮して選定する（21年度と同規模）。木原生研では、京大からの分担分に加えて残数の少なくなった系統を増殖する（坂、別紙資料）。これらの計画が承認された。
- 配布については、自家消費をカウントしなくなるので件数が減少する可能性がある。

(2) DNA マーカー多型調査

- 48系統に関し400マーカーの調査を計画（那須田、別紙資料）。データのウェブベース公開を開始する。PCRプロファイル、マップ位置などを考慮し、コアマーカーセットの選定に着手する。また、「DNAマーカーの多型調査」研究会を開催する。これらの計画が承認された。ゲノム情報等整備プログラムに参画を希望（審議事項 後段参照）。

(3) DNA リソース

- ストレス処理下のEST 約4 万シーケンスの寄託をうける予定（川浦、別紙参照）。ゲノム情報等整備プログラムに申請し、完全長cDNA クローンのシーケンスの収集を図る。配布対象物としてのクローンの整備、データベースの整備を進める。TAC クローンを保存し、ユーザーのリクエストに応じてクローンを提供する。
- これに対し、期日付きの計画を立て、計画どおり実施して（計画以外のことはしないで）ほしいとの要請があった。特に既収集のデータの公開を急ぐべきで、ユーザーにとってリソースがどのように有用か明確に示すべきとの意見が出された。また、平成21 年度からは自家消費分は提供実績に入らないことに留意すべきとの意見が出された。そのうえで、承認された。

2. 提供にかかる実費徴収について

第1 回KOMUGI データベースワーキング「データベース研究会・コムギ編」（宅見）

- 補助金化後においても、提供業務は補助対象外になり、平成21 年度中に実費徴収システムについて調整し、平成22 年度から実施すべきとの状況を確認し、コムギにおいても実費徴収システムの導入を検討することに合意した。コムギにおいては2 機関（京大と横市大）が実施機関であるが、徴収システムは京都大学に一本化すべき。徴収額の取扱い（分配？会議費？）、単価等は今後検討すべき事項。京都大学の他のNBRP 生物種（ラット、ホヤ）の動向をにらみつつ、遠藤が大学事務局と導入に向けた話し合いを持つ。
- 単価については、カンザス州立大学では1 系統15 ドル、農水ジーンバンクでは10 系統5700 円徴収している。系統数による傾斜的料金体系も一考すべき。アラビドプシスでの実例（理研、小林）でもされたように実費の積算根拠が必要（積算根拠について業務実施者が次回の運営委員会に提示する）。リソースは無償とし、ハンドリングにかかる費用を徴収するのが望ましい。
- 実費徴収に伴い提供物に責任が生じる。低発芽率などのクレーム対応を考慮すべき。リクエスト時のMTA 等に免責事項を明記すべき。
- DNA クローン等の提供についても、種子と同様の実費徴収を行う（実費の積算根拠を次回の運営委員会で提示）。

3. 長期保存について

- 第2 期増殖分からバックアップ・長期保存体制を整備する。アルミパックに乾燥剤とともに封入し、マイナス20 度以下で保存する。具体的な方法については、河原・遠藤坂で協議し、次回の運営委員会で報告する。なお、第2 期増殖分による試行後、第1 期収集分についてもバックアップ・長期保存体制に乗せる。

4. 委員の変更

- 平成21 年3 月末日に岐阜大学を退職する古田喜彦氏から運営委員辞任の申し出があり、これを承認した。
- コムギ小委員会委員の安井康夫氏（京都大学）から小委員辞任の申し出があり、これを承認した。

5. ゲノム情報等整備プログラムについて

- DNA マーカー多型調査（那須田）より、コムギのマーカー情報をオオムギゲノム情報と統合することを目的とするプロジェクトをゲノム情報等整備プログラムに申請したいとの発言があった。プロジェクトはコムギの各染色体あたり10程度のEST 配列をピックアップし、代表的コムギ系統品種間のSNPs を塩基配列解析により決定するものとの説明があった。
 - 同時に、DNA リソース（荻原）から完全長cDNA クローンの塩基配列収集の申請が予想される。
 - コムギとオオムギのゲノム情報をつなぐことは大いに歓迎すべき、同時に完全長cDNA クローンの解析によって国際的優位性を維持すべきだとの意見が出された。以上の状況の下、（1）完全長cDNA クローンの塩基配列収集と（2）EST 配列の品種間SNPs の調査収集の両方を併記した申請書を作成し、京都大学（遠藤）から申請書を出すとの結論に至った。詳細については関係者（荻原・那須田）で協議する。
-

コムギ小委員会議事録

1. 生物遺伝資源委員会委員について

遠藤より、生物遺伝資源委員会の委員を多忙により後退してほしいとの申し出があったが、NBRP の代表機関の課題管理者が自動的に委員になっているため交代は難しいとの見解で一致した。多忙による欠席時には、代理を出すことで対応する。

2. 第12 回国際コムギ遺伝学シンポジウムについて

2013 年8 月にパシフィコ横浜を会場として仮押さえした(川浦)。準備期間は早く過ぎてしまうので、タイムスケジュールを作って準備を進める。

3. 第6 回国際Triticeae シンポジウムについて

2009 年6 月に京都(京都大学 時計台)で行う(河原、開催委員長)。現在70 名ほどが登録していて、最終的には90 名ほどになる予定。3 月末までアブストラクト・参加申し込みを受け付けているので、是非参加してほしい。助成機関からの助成を受けることができたので学生に参加費の援助を行う予定。

4. eWIS について

編集長 松岡、副編集長 笹沼の体制で20 年度、21 年度の編集作業を行う(笹沼)。順調に投稿を得て、第107 号を2009 年2 月に刊行。NBRP の報告については、107 号掲載分は19 年度の報告。20 年度の報告を5 月31 日締め切りで募集するので原稿を用意してほしい。

5. ムギ類研究会について

2009 年11 月27、28 日ぐらいに福井のいずれかの駅の近くもしくは福井県立大学で開催する予定(村井)。芦原温泉も候補地の一つ。

6. ウェブ絵本「コムギの話」

従来版の「コムギの話」を改訂したい(辻本)。分担執筆のお願いをするので、是非引き受けてほしい。

日本語版をまず作り、英語版も作る。分子生物学会までに間に合うように作成し、パンフレット等の形で来訪者に配布できるのが望ましい。

7. 木原博士蔵書の整理

横浜市立大学と木原ゆり子さんのもとに木原先生の蔵書や書簡などの貴重な資料が大部分未整理のまま保管されている(坂)。この第1 級の史料の整理について、坂を中心にワーキンググループを作って検討していく。ウェブベースの博物館をまず作りたい。標本などの資料については京都大学博物館に移管することも検討(窓口 河原)。科研費にデジタルアーカイブ化をサポートする助成があるのでそれに応募することを検討。